

徳島大学における防災リーダー養成の取り組み

徳島大学環境防災研究センター 正会員 中野 晋
 徳島大学環境防災研究センター 正会員 梅岡 秀博
 徳島大学環境防災研究センター 正会員 ○ 鳥庭 康代

1. はじめに

今後 30 年以内に南海トラフ地震の発生する確率は 70%程度とは発表されている。徳島県でも南海トラフ地震時には深刻な揺れと津波による被害が予想される。自治体や自主防災組織においても地震・津波・自然災害において安全管理の防災対応が喫緊となっている。また、その対策に正しい知識と技能を持ち、いざという時に速やかに対応できる人材を育成することを目指して、当センターでは徳島大学防災リーダー養成講座として、一年を通して学ぶ長期講座と土日を利用して学ぶ短期講座を開設している。長期講座は全学共通教育の教養科目に位置づけられるもので、「災害を知る」(前期 2 単位)、「災害に備える」(後期 2 単位)の 2 科目で構成される。この 2 科目の合格者を「徳島大学防災リーダー」として認定する。短期講座は自治体から推薦された社会人と一般公募により応募のあった方を対象に徳島県と協力して徳島県地域防災推進員(徳島大学防災リーダーにも認定)を養成している。また、この養成講座のカリキュラムは平成 19 年 3 月に国立大学では初めて(特)日本防災士機構の認定を受けたもので、本講座を修了したものには防災士の受験資格が付与される。なお、長期講座では学生 140 名と社会人 30 名が共に学べる共創型科目に位置付けられている。

2. カリキュラムの内容

「防災士」養成カリキュラムでは「いのちを自分で守る(自助)」について 12 時間、「地域で活動する(共助・公助)」について 9 時間、「災害発生のしくみを学ぶ」について 9 時間、「災害に係わる情報を知る(情報)」について 8 時間、「最新の災害状況や防災技術を知る(防災)」について 9 時間、「いのちを守る(救急)」3 時間、合計 50 時間の講義や実習が必要とされる。本講座でも推奨されている標準カリキュラム構成に従い、平成 25 年度を例に挙げると、表 1 のようなカリキュラムで教育を行っている。長期講座である「災害を知る」では大学院ソシオテクノサイエンス研究部(工学部)教員 5 名、総合科学部教員 3 名、自治体職員 2 名、団体職員 2 名、「災害に備える」では大学院ソシオテクノサイエンス研究部(工学部)教員 3 名、国及び自治体職員 4 名、団体職員 1 名、その他専門家 2 名が担当した。短期講座でも長期講座と同じ内容で、春と秋の土日の 8 日間、32 時限(各 90 分)の講義・演習を実施し、約 100 名の受講生を受け入れた。なお、防災士の資格取得に必要な普通救命講習(3 時間)についても、講義時間外で講習を実施している。また、平成 20 年度から講義をビデオに収録し、受講生が後日講義内容を確認することも可能となっている。

3. 主な成果

徳島県では本センターの支援を受けて平成 17 年と 18 年に徳島県地域防災推進員養成講座を開催し、計 70 名程度、平成 19 年度には防災に関心を持つ人の裾野をできるだけ広げる努力が必要であることから、大学の教養教育を通して、毎年一定数(100 名程度)、防災士レベルの防災知識を持つ優秀な卒業生を継続的に育てていきたいとの思いから防災リーダー養成講座を開設した。講義担当者が交代するオムニバス方式の授業となるので、毎回出題される小テストまたはレポートにより総合評価が行われた結果、平成 25 年度は、防災リーダー養成講座、前期(災害を知る)が学生 155 名、県推薦社会人 34 名、後期(災害に備える)は学生 120 名、県推薦社会人 35 名が受講した。また、短期防災リーダー養成講座には受講生 100 名が受講した。このうち徳

キーワード 防災教育, 防災士, 自主防災リーダー
 連絡先 〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学環境防災研究センター 中野 晋 TEL.088-656-8965

島大学防災リーダーとして認定された学生 62 名，県推薦社会人 120 名の合計 182 名に認定証が授与(写真 1)された。また，徳島大学防災リーダー認定者と防災士(日本防災士機構)認定者の推移を表 2 に示す。さらに平成 26 年度からは，学生，市民向けの講座に加えて，徳島県職員対象の防災リーダー養成研修を実施予定である。

表 1 徳島大学防災リーダー養成講座の内容(平成 25 年度)

災害を知る(前期)		災害に備える(後期)	
	講義内容		講義内容
1	オリエンテーション/防災士とは	1	公助・共助・自助
2	風水害	2	災害に強いまちづくり 建物の耐震化
3	地震災害	3	企業防災
4	土砂災害・火山災害	④	自主防災活動の進め方
⑤	阪神・淡路大震災の体験を通して	⑤	洪水予報
6	地震と地盤災害	⑥	災害と保険
7	強風・竜巻災害	7	河川堤防の耐震化
8	津波災害	⑧	防災情報システム
⑨	★意思決定訓練(クロスロード)	⑨	海溝地震・津波研究の最前線 -JAMSTECの挑戦-
10	医学と災害	10	津波避難対策
⑩	火災	⑪	地震情報と気象予警報
12	ライフライン被害	⑫	建物の耐震化
⑬	災害医療	⑬	土砂災害危険情報
14	被災者の心理ケア	⑭	★くらしと水防工法
15	商店街の被災と復興	15	防災グループ演習(図上訓練)
○	★普通救命講習(希望者のみ)	16	防災リーダー講座修了式
○数字は学外講師が担当，★実習または演習		防災士認定試験(日本防災士機構が実施)	



写真1 徳島大学防災リーダー認定証を授与される受講生(2014年1月31日)



写真2 「災害を知る・意思決定訓練」，防災リーダーを目指して実習に取り組む受講生の様子(2013年6月14日)

4. おわりに

本センターでの養成研修は，迅速な防災実践力養成するために必要な正しい知識と技能を取得し活動ができる人材の育成を重視して，単位取得者に対し「徳島大学防災リーダー」を認定，その後，防災士として自治体や自主防災組織で活動を行っている。防災士機構の規定によると，防災士養成研修事業では，防災士教本で示される 31 項目の講義内容から必修研修項目 12 講座を受講させることが最低条件とされている。各地の防災士養成講座の多くは土日の 2 日間の研修で，8 講座を受講し，研修で不足した項目はレポート提出をすることで防災士の受験が可能となっている。これに比べると，本センターのカリキュラムは防災士制度の理念を忠実に活かした講座を提供しているのが特徴である。また，徳島県推薦の社会人には自治体職員，消防などの防災関係の OB，自主防災組織のリーダーなど，防災知識や経験を有する人が多く，グループ演習(写真 2)や水防工法などの実習では積極的に質疑を行うなど，学生にとっても良い刺激となっている。防災士会や各地の自主防災会などと連携して定期的なフォローアップをどのように進めるかが大きな課題である。

表 2 徳島大学防災リーダーと防災士認定者の推移

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
徳島大学防災リーダー	79名	120名	114名	98名	126名	90名	182名
防災士(日本防災士機構)	62名	72名	62名	66名	78名	61名	139名